

## 巻 頭 言

21世紀を間近かにした今日、世界的規模にわたって、さまざまな領域や分野で価値観のめまぐるしい変化がみられる。'このような時期には、自国の文化のみならず世界の国々の文化・伝統に対する共感的な理解が必要である。とりわけ地域紛争の原因となる人種問題や宗教対立等は偏見と独善的な価値観によって引き起こされていると言って過言ではありません。

このような時代の中で、言語文化研究所の果たす役割は大きいものがあります。国際交流が日常化した状況で、わが国を訪れる世界各国の人々と学術研究・留学・旅行等で海外へ渡航する日本人が増加の一途をたどっています。人と人との交流は、言語と文化の理解からはじまります。従来の国際交流は経済的発展と科学技術のレベルアップを目指すことに終始していました。これからの交流には、より精神的な交流が求められてきています。言語文化研究所では、言語と文化の研究と教育を充実発展させながら、時代の要請にかなった国際社会に寄与する国際的視野に立った事業を推進し、人材の育成につとめていきたいと思ひます。今まで以上に越谷・湘南の両キャンパスの学生・教職員相互の交流を深め、さらに国内外の研究所と協力関係を密接にしながら、一層の発展をはかっていきたいと考えています。今までに増した御協力をお願いいたします。

今回の「紀要」は、新たに出発した言語文化研究所の創刊号とも言える言語・文化に関わる卓越した論文や論考を収録することができました。執筆された各位にお礼申し上げますとともに、今後とも各方面からのご理解とご批評、ならびにご支援をお願いする次第です。

1995年3月

言語文化研究所  
所長 謡 口 明